

新型コロナウイルスの感染拡大や「さっぽろ雪まつり」の事実上の中止で冬の観光需要が低迷する中、札幌市中心的なホテルが宿泊料金の大幅値下げを迫られている。市内ホテル関係者によると例年、1月末～2月上旬は、平日の場合1人1泊1万円台のプランが多いが、今年は同千円台のプランも目立つ。ただ、値下げが集客につながっている

札幌ホテル大幅値下げ 「中止」雪まつり

と言えず厳しい状況が続く。さっぽろ雪まつりには毎年、国内外から多くの観光客が訪れ、市内ホテルの書き入れ時になっている。市内のビジネスホテル関係者は「雪まつり時期は例年1泊1人8千～1万円程度だが、今年は同1500～2千円程度にし

た。今までに経験のない価格水準だが、何とか集客につな

げたい」と話す。大手宿泊予約サイトでも2人1室で1人

1泊1100円台のプランなどがある。

市内のホテル業関係者によ

ると、国の観光支援事業「G To Travel」が全国

千円台でも集客低調

で一斉停止された昨年12月以降、市内ホテルの稼働率は1割程度に落ち込み、例年稼働率が9割ほどの2月も回復は見通せない。

南区の定山溪温泉でも大型ホテルが宿泊料金値下げや施設休館を余儀なくされている。定山溪観光協会の長谷川信之事務局長は「客室稼働率も例年よりかなり低い」と話す。(加藤祐輔、服部貴子)